

水戸藩国難事件殉難者慰霊法要・式次第

日時 平成16年9月23日 午後0時45分
 場所 曹洞宗寿昌山・祇園寺 開基・徳川光圀公(水戸黄門)
 水戸市八幡町11-69
 主催 水戸藩国難事件殉難者慰霊法要実行委員会
 共済 祇園寺

第1部	式典の部	司会	朝比奈委員
午後0時45分		式典開始	
	1 読経	小原宣弘	祇園寺住職
	2 祭文朗読	大森信英	実行委員会・会長
	3 焼香	大森信英	〃
	4 来賓焼香		お名前を申し上げます ご焼香ください
		加藤浩一様	水戸市長
		岡田 広様	参議院議員 前・水戸市長
		狩野 安様	参議院議員
		赤城徳彦様	衆議院議員
		川津 隆様	茨城県議会議員
		小坏和男様	水戸市議会・議長
		木本教夫様	水戸市議会・議員
		吉田 仁様	水戸市教育委員会・教育長
		宮嶋敬夫様	幕末維新水戸有志を偲ぶ会・顧問 前会長
		室伏 勇様	幕末維新水戸有志を偲ぶ会・会長
		川上 清様	幕末維新水戸有志を偲ぶ会・事務局長
		小浜一男様	日立歴史研究会・会長
		池田貞雄様	日立歴史研究会・事務局長
		友末忠徳様	茨城新聞社・社長
	5 発起人焼香		自由焼香 順序不問
	6 子孫縁者焼香		自由にご焼香ください
	7 一般焼香		自由にご焼香ください
	8 読経		
午後1時15分	式典終了		朝比奈委員

式典終了後 客殿の会場へ移動していただきます
 客殿の受付にて資料を受け取り奥の会場へお進みください
 自由に着座しお待ちください

第2部	設齋の部	(食事と懇親会)	
午後1時20分		司会	朝比奈委員
	1 開会のことば		蔭山副会長
	2 来賓の紹介		〃
	3 会長挨拶		大森会長
	4 来賓挨拶		加藤浩一様・水戸市長
	5		岡田広様・参議院議員
	6 齋(食事)		
	7 資料説明		前沢委員
	8 自由スピーチ 質疑応答		会長ほか、参会者 自由に
	9 閉会のことば		蔭山副会長
午後3時		司会 設齋終了	朝比奈委員
		散開	
		散会	

水戸藩国難事件殉難者慰霊祭

本日、ここに、水戸藩国難事件殉難者慰霊法要を挙行するに当たり、第二代水戸藩主徳川光圀公開基の祇園寺境内に建立された「恩光無辺碑」の前に、ご来賓の皆様ご列席のもと、子孫関係者一同、碑前に会して、殉難者の御霊に謹んで申し上げます。

最初に「恩光無辺碑」の碑文を申し上げます。

明治戊辰 徳川宗家の衰廃を悲しみ 慷慨 難に赴く者 数百人を下らず

皇恩洪大 宗家の後に録す 遺霊また以て冥すべし 茲に其の姓名を挙げ碑背に録す也

篆額は、室田義文翁の書であり、碑文は朝比奈知泉の撰であります。

次に、市内・神応寺に建立された「諸生党記念碑」の碑文を申し上げます。

篆額は、旧会津藩主・松平容保公の書であり、碑文は旧会津藩士・南摩綱紀の撰であります。(尚、この記念碑は、戦災で破壊し拓本のみが現存しています)

水戸威公、東照公の少子を以て、徳川氏を輔けて皇室の藩屏と為り、後世相続くこと三百年、天朝を尊び幕府を重んじ、臣隸亦遵奉して敢て失墜せず、明治戊辰の変、宗家顛覆を悲しみ、慷慨發憤、死を水戸、会津越後等の地に致す者凡そ三百人、今年十七回忌に当り、親戚故旧相謀り、碑を水戸城西常磐村神応寺に建て、余をして之を銘せしむ。嗚呼余亦戊辰の乱に遭い矢石の間に間関する者、銘に臨んで豈凄然の気なからんや。銘に曰く

何んぞ以て主恩に報ぜん、唯だ一死あるのみ、死各其の所を異にするも魂は同じく桑梓に帰す、矧んや藩祖の廟に近く、其の志乃ち遂ぐ、地高くして松青く、豊碑千祀に伝う。

この二つの慰霊碑は、水戸藩門閥諸生派を集大成する象徴的存在であり、私達にとって忘れられないものであります。

幕末維新の激動期に、国に行くすえを憂い、国事に奔走しながら、一途に尊皇敬幕に走り、不慮の死を遂げ、屍を各地の山野にさらし、多くの有為の人材が散華された事は誠に残念の極みであります。天狗諸生、各其の主義は異なるも、その君に対する忠誠心に於いては少しも異なる所は無いと室田義文翁のお話の通り、私達も信ずるものであります。

元治元年、天狗党事件以来百四十年、恩光無辺碑建立以来七十年、本日、ここに、往時を偲び、改めて、各地に散華した人々に思いを致し、この先祖代々の地・水戸に於いて、子孫一同、碑前に会して、鎮魂慰霊の誠を捧げるものであります。

そして、幕末争乱に際し、不幸にして散華した人々の偉業に光をあて、顕彰し、この歴史の真実を風化させることなく、未長く後世に伝える所存であります。

次の辞世の歌は、この不幸な出来事を象徴しているように思えてなりませんので、特に申し上げます。

君ゆへに すつる命は おしまねど 忠が不忠になるぞ かなしき
事、志と異なると雖も、御霊の安らかならん事を心よりお祈り申しあげます。

平成十六年九月二十三日

参列者を代表して

大森信英

水戸藩国難事件殉難者慰霊祭参列者名簿

平成16年(2004)
8月20日現在

慰霊法要の日を迎えて、

本委員会の野沢汎氏は其の著書「後裔が見た、水戸藩騒動の事実」のあとがきの中で、私の父はかねて自分の祖先の歴史と、その経緯について調査・研究を重ねていた。我が先祖は下級武士ながら正統な水戸藩士なのに、解明できないのは何故だろう。それはわが家が諸生派家族のレットルを貼られたからだ。明治維新から天狗党は我が世の春を謳歌したが、反対に諸生派は「除族収録」され、子孫は明治二十二年憲法発布の大赦令が出るまで、世の中に遠慮しながら暮らしていた。諸生派の記録・資料は焼却されたか死蔵され、容易に知り得なかった。と記しているが、これは一人、野沢氏のみでなく、本日も参加なされたすべての方々の思いであろうと推測するのである。

毎年、水戸市では黄門祭りが行われているが、その出し物の中に、「追い鳥狩り」の行列があるが、其の行列の従者の旗指し物を見ると、総てが天狗派の人々の指し物で、諸生派の指し物は全く見られない。この追い鳥狩りの行われた時代には、まだ天狗・諸生と云うような派閥はなかった時代であるので、この行列を企画した関係者はそのような事実を知って実施しているのであろうか、疑いたくなるのである。いくらお祭りだからと云っても水戸市民だけでなく、他の地方の方々も見に来るのであるから、もう少し史実に忠実であっても良いであろうと思う。さきに述べたように、今時大戦を経て、諸生派の子孫はやっと平穏な日々を送ることが出来るようになり、祖先の靈魂を祭れる日を迎える事が出来たのである。

殉難者慰霊祭参列者名簿

NO2

	参列者名	市町村名		参列者名	市町村名
【つ】			【わ】		
	津田 信夫	水戸市		綿引 周一	水戸市
【と】				綿引 正明	水戸市
	遠西 輝夫	千葉県柏市			
	戸祭 勝文	水戸市			
	戸祭 弘勝	水戸市			
【な】				【特別参列者】	
	中川 興一	埼玉県深谷市			
	○ 幸子		欠	加藤 浩一	水戸市 水戸市長
	永田 涼子	埼玉県狭山市		狩野 安	水戸市 参議院議員
欠	○ 健二			岡田 広	水戸市 参議院議員
	○ 絵里香			赤城 徳彦	水戸市 衆議院議員
【ね】				川津 隆	水戸市 県議会議員
欠	根本 田見雄	那珂郡那珂町		木本 信男	水戸市 県議会議員
【の】				小坏 和男	水戸市 市議会議員
	野澤 汎	水戸市	欠	宮嶋 敬夫	水戸市 前総会会長
【は】				室伏 勇	水戸市 総会会長
	橋爪 英子	埼玉県越生町		川上 清	水戸市 総会事務局長
	○ 祐一			小浜 一男	日立市 日立歴史会会長
【ひ】				池田 貞雄	日立市 事務局長
	平戸 吉衛	水戸市		茨城新聞社(学芸部)	
【ま】				小原 宣弘	祇園寺住職
	前沢 瑞穂	水戸市			
	松葉 尚志	水戸市		【当日受付参加者】	
【み】					
	宮野 有明	横浜市		○ 愛子	櫻原了一ご家族
【や】				○ 陽一	
	谷田部 一	常陸太田市		○ 定子	
	谷田部 良子	東茨城郡小川町		○ 昭子	武石伊三郎ご家族
【ゆ】					
	結城 敏也	日立市			
	○ 千代子				
	○ 明姫				

殉難者の継承者子孫名簿

※ 敬称略 欠は当日の欠席者(○印はご家族)

NO1

NO	参列者名	市町村名	NO	参列者名	市町村名
【あ】			【か】		
	朝比奈 泰仁	水戸市		川上 有俊	東茨城郡桂村
	○ みつ子			○ 静子	
	○ 泰治			○ 有太	
	○ 泰将			○ 良子	
	朝比奈 輝明	水戸市		川上 有文	水戸市
	朝比奈 泰紀	水戸市		○ 京子	
	朝比奈 泰忠	水戸市		川上 有忠	平塚市
	朝比奈 泰幸	水戸市		川上 有和	常陸太田市
	朝比奈 眞	水戸市	【く】		
欠	朝比奈 光一	水戸市		倉本 元子	水戸市
【い】			【こ】		
	一 澤 勝男	水戸市		鯉 淵 幸	東茨城郡内原町
	一 沢 進	水戸市	欠	小島 武保	水戸市
欠	一 澤 藤男	東茨城郡茨城町		小松崎 章	西茨城郡岩間町
	市野澤 晴孝	日立市	【さ】		
	市毛 文雄	水戸市		佐藤 万里子	水戸市
	今橋 りえ	日立市		○ 正行	
【お】				佐々木 友好	西茨城郡岩間町
	大曾根 豊治	水戸市		佐野 哲治	牛久市
	大 畠 一夫	那珂郡那珂町	【し】		
	大森 信英	水戸市		清水 光夫	水戸市
	○ 千種			○ テル	
	大森 信男	水戸市		清水 文子	水戸市
	大森 泰夫	那珂郡東海村		白石 武実	東京都
	小山 文子	小山市	欠	白石 洋一	
	岡見 薫	水戸市	【す】		
【か】				鈴木 重一	水戸市
欠	寛 陽之助	水戸市	【せ】		
	櫻原 了一	東京都	欠	関野 四郎	東茨城郡内原町
	門井 貢	水戸市	【た】		
	藤山 二郎	水戸市		武石 伊三郎	ひたちなか市
				立原 貞夫	水戸市

NO	殉難者名	子孫氏名	〒	住 所
1	赤林 三郎兵衛	赤 林 良 子		
2	阿 部 惣太郎	阿 部 登 美		
3	石 川 新 吉	石 川 三 男		
4	上 彦四郎	上 彦四郎		
5	小 川 辰 蔵	小 川 浩		
6	岡 見 彦五郎	岡 見 陽 輝		
7	太田原 伝 蔵	太田原 庸 薫		
8	尾高 理右衛門	尾 高 章 一		
9	加 藤 孫三郎	加 藤 元 章		
10	小 室 善兵衛	小 室 和 夫		
11	斉 田 金三郎	斉 田 重 紀		
12	斎 藤 新六郎	斎 藤 秀 夫		
13	志 水 陸一郎	志 水 敏 秀		
14	鈴 木 運之介	鈴 木 重 幸		
15	助 川 次衛門	助 川 清		
16	高 田 秀次郎	高 田 英 男		
17	武 石 次衛門	武 石 均		
18	武 石 勝 七	武 石 正 雄		
19	戸 祭 久之丞	戸 祭 芳 男		
20	友 部 八太郎	友 部 大		
21	友 部 八五郎	渡 辺 秀 幸		
22	富 田 理 介	石 橋 敏 雄		
23	中 澤 勇三郎	中 澤 文 雄		
24	中 山 五 作	中 山 茂		
25	名 越 大八郎	名 越 正 訓		
26	生 井 岸次郎	生 井 和 夫		
27	平松 新右衛門	平 松 健 司		
28	藤 田 半 蔵	藤 田 昌 弘		
29	深 谷 長四郎	深 谷 和 男		
30	松 尾 吉五郎	松 尾 明 宏		
31	益子民部左衛門	益 子 薫		
32	村 松 彦 六	岸 洋		
33	山 本 繁太郎	山 本 貴 次		
34	横 山 平 蔵	横 山 忠 一		
35	吉 村 直三郎	吉 村 直 治		
36	渡 辺 長兵衛	渡 辺 英 次		
37	薄 井 友衛門	薄 井 昌 司		

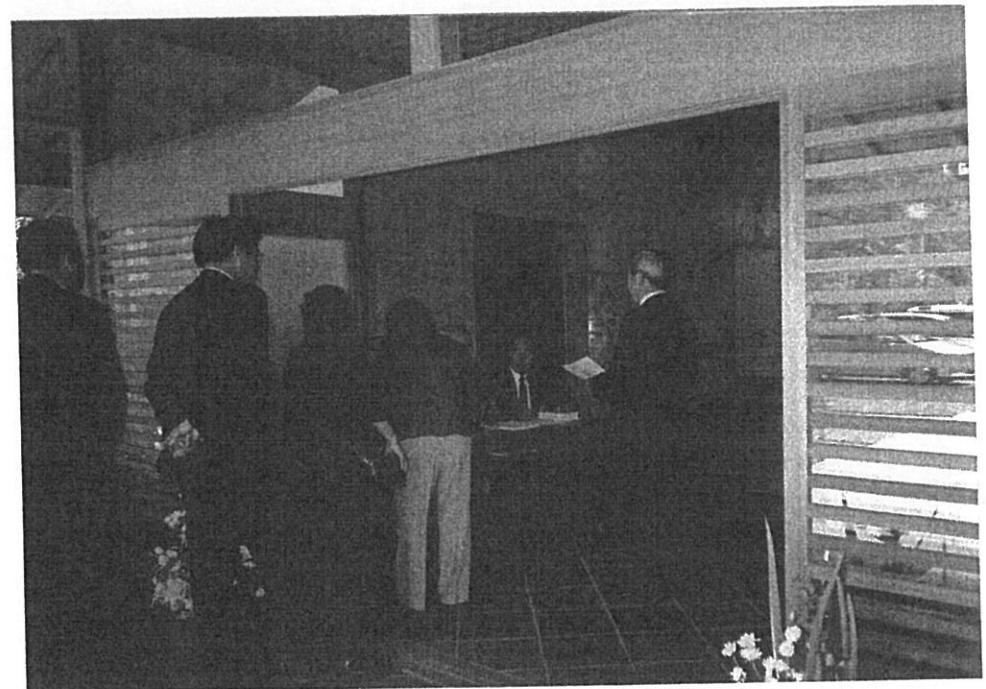
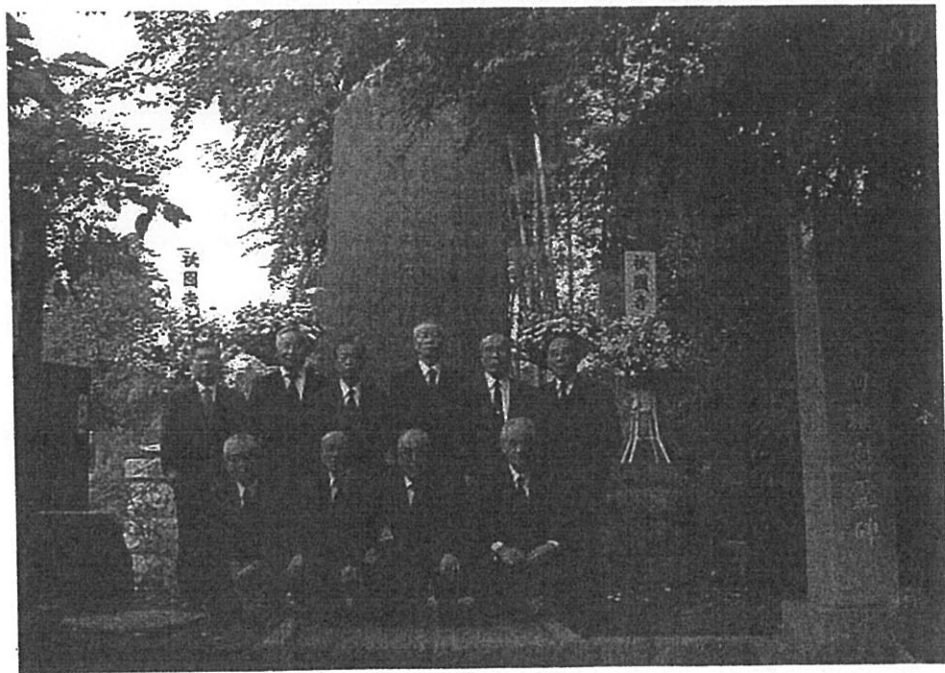
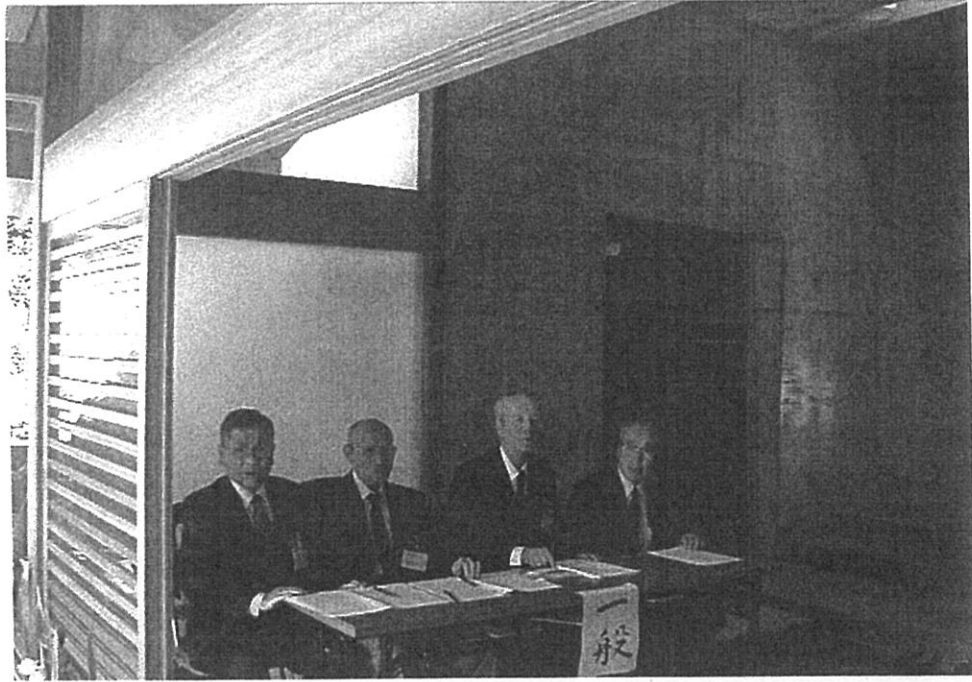
案内状発送内訳

- 1 殉難者名簿の説明 ① 調査対象者 140……恩光無辺碑氏名刻印者
 ② 子孫確認者 94……郵便番号記載
 ③ 不明者 46……郵便番号欄・空欄
 ④ 不明者は(旧住所)……案内状発送の対象としない

	案内状発送数	参列者	不参列	無回答
2 案内状発送内訳				
① 殉難者・継承者子孫…	94	27	22	37
② 殉難者親族・縁者…	30	21	5	5
③ 招待者…	27	9	14	4
④ 仰天会々員(継承者…)	29	10	10	9
子孫重複者を除く)				
		※【住所不明返却】11		
⑤ ご家族同伴者		14		
⑥ 追加	8	1		3
⑦ 郵送小計	188	82	51	69
⑧ 予備(残数)	11			
合計(準備数)	200			

- 3 案内状準備数 ① 趣意書 200枚
 ② 実施要項 / 継承者子孫・親族・縁者・会員用 170枚
 ③ □ 招待者用 30
 ④ 案内状 / 継承者子孫・親族・縁者用 140
 □ 招待者用 30
 △ 仰天会員用 30
 ⑤ 案内図 200枚
 ⑥ 封筒 200
 ⑦ 返信用ハガキ 200

以 上



あとがき

(2004年)平成16年9月23日 「恩光無辺碑」1934年建碑以来、70年の節目の年に又、(1864年)元治元年・天狗党事件以来140年の節目の年に当たり、水戸藩国難事件殉難者慰霊祭を挙げる為に実行委員会を結成し、殉難者及び其の子孫を再調査致しました。

(1978年)昭和53年、水戸市役所・市史編纂室作成の「諸生党子孫住所一覧」により、再調査の結果、原本「水戸殉難志士恩光碑保存会」作成の殉難者名簿に、記載漏れの殉難者を発見しましたので、追加記載致しました。

この名簿は、原本の誤記を一部訂正して、確認不能はそのままとし、原本を100パーセント基本として転記して、改訂版として作成しました。

慶応4年と明治元年は1868年にて同年であります。改元は慶応4年9月

(2004年)平成16年9月23日

水戸藩国難事件殉難者慰霊祭実行委員会

会長 大森信英
副会長 蔭山二郎
実行委員 野沢 汎
同 戸祭勝文
同 朝比奈泰仁
同 前沢瑞穂
同 平戸吉衛
同 川上有俊
同 清水光夫
同 大森信男
同 川上有文
同 綿引周一
祇園寺住職 小原宜弘



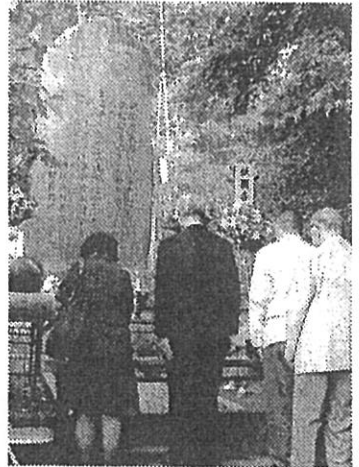
2004/11/16 9:24(金)

吐玉泉

▲幕末から明治初期にかけての全国各地での戦いなどで命を落とした水戸藩・諸生派の志士たちを供養する「水戸藩国難事件殉難者慰霊祭」がきのう、水戸市八幡町の祇園寺で行われた。写真。

▲慰霊祭は幕末史研究団体、水戸仰天会が計画。諸生派を顕彰する祇園寺境内の「恩光無辺碑」が建立されて七十年、幕末の「水戸朋党事件」から百四十年を迎えることを契機に、戦後実施が途絶えていた慰霊祭が復活することとなった。

▲参列者を代表し、実行委員会の大森信英会長が追悼文を読み上げ、「幕末争乱に際し命を落とした人々の偉業に光を当て、歴史を風化させることなく後世に伝えたい」と語った。続いた。続いて志士の子孫たちや来賓が焼香。



激動の時代を生きた先祖の足跡をしのんだ。